（令和８年７月）

種　　類	市況の概要
（青果部の動向） 青　果　全　般	７月は、梅雨の時期が長く続いたことや、高温による生育遅れや品質低下のため、全体として総入荷量は前年同月比で７％下回り、総取扱金額は前年同月比で５％上回った。 今後は葉菜類、果菜類など、高温の影響が懸念され、不安定な入荷となることが予想される。 ８月は、野菜では、枝豆やとうもろこしが最盛期を迎える。果実では、ぶどう類の入荷が増え、りんごやなし類の入荷が始まる。
野　　菜	野菜全般の入荷量は前年同月比で５％下回り、単価は１７％上回った。 根菜類の入荷量は前年同月並みだったが、単価は８％下回った。 葉菜類の入荷量は前年同月比で３％下回り、単価は１３％上回った。 果菜類の入荷量は前年同月比で５％下回り、単価は２０％上回った。 土物類の入荷量は前年同月比で１３％下回り、単価は３８％上回った。
果　　実	果実全般の入荷量は前年同月比で１４％下回り、単価は７％上回った。 かんきつ類の入荷量は前年同月比で２９％上回り、単価は１８％下回った。 りんご類の入荷量は前年同月比で１１％下回り、単価は１８％上回った。 もも類の入荷量は前年同月比で３５％上回り、単価は１５％下回った。 ぶどう類の入荷量は前年同月比で１０％下回ったが、単価は前年同月並みであった。 メロン類の入荷量は前年同月比で１８％下回ったが、秀品率が低く単価は５％下回った。 すいか類の入荷量は前年同月比で８％下回ったが、単価は猛暑の影響で需要が高く高単価であった前年を１６％下回った。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長だいこん	北海道を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で５％下回り、単価は７％上回った。
西洋にんじん	北海道、青森、和歌山を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で１４％上回り、単価は３０％下回った。
【葉菜類】	
はくさい	長野から入荷した。入荷量は前年同月比で８％下回り、単価は１５％上回った。
キャベツ	群馬を中心に、長野などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１１％下回り、単価は１４％上回った。
ほうれんそう	岐阜を中心に茨城などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は３％下回った。
レタス	長野を中心に入荷した。入荷量は前年同月並みだったが、単価は９％上回った。
【果菜類】	
きゅうり	福島、京都、長野、愛媛を中心に、宮崎などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１０％下回り、単価は３３％上回った。
なす	京都を中心に、徳島、高知、群馬などからも入荷した。入荷量は前年同月比で２３％下回り、単価は３１％上回った。

とまと	北海道を中心に、岐阜、熊本などからも入荷した。入荷量は前年同月比で３％下回り、単価は１７％上回った。
ピーマン	大分を中心に宮崎、兵庫、茨城などからも入荷した。入荷量は前年同月並みだったが、単価は９％上回った。
【土物類】 ばれいしょ （メークイン含む）	北海道、千葉を中心に長崎、茨城などからも入荷した。入荷量は前年同月比で２４％下回り、単価は１２２％上回った。
たまねぎ	兵庫を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で１６％下回り、単価は３５％上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスみかん	長崎を中心に、佐賀、和歌山、宮崎から入荷した。入荷量は前年同月比で２５％上回り、単価は１２％下回った。
富士 （サン富士含む）	青森から入荷した。入荷量は前年同月比で１６％上回ったが、単価は産地における生産コストの増加で価格転嫁が進み、１２％上回った。
もも	山梨を中心に福島などから入荷した。入荷量は前年同月比で３３％上回り、単価は１５％下回った。
巨峰	福岡を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で１８％下回ったが、単価は前年同月並みだった。
アールスメロン	京都を中心に、静岡、茨城、高知などから入荷した。入荷量は前年同月比で８％下回ったが、単価は秀品率が低く１４％下回った。
大玉すいか	山形、鳥取、長野を中心に京都、石川などからも入荷した。入荷量はいくつかの産地が前進出荷傾向となった影響により前年同月比で９％下回ったが、単価は猛暑で需要が高く単価高だった前年に比べ、１７％下回った。